



1. 能登半島地震の被災地で活動する学生たち©北陸学院大学 2. 佐賀県武雄市の小松政市長らと共同備蓄倉庫に物資を搬入 3. 4. 栃木市の防災イベントで能登への思いを伝えるブースを出展 5. 能登でボランティア活動が続ける足湯隊©被災地NGO協働センター

能登半島地震から半年

増える「災害関連死」を防ぐために

今年元日の能登半島地震から6カ月以上が経ちましたが、水道の復旧や被災建物の解体が遅れ、復興への道のりが全く見えない地域もあります。5月には輪島市の仮設住宅で一人暮らしの高齢者が亡くなり、被災地では依然、「災害関連死」のリスクが高い状況にあります。Civic ForceはNPOパートナー協働事業や物資支援の取り組みを通じて、孤立や災害関連死を防ぐ支援に力を入れています。

また、5月と7月、千葉県や栃木県で開催されたイベントに出展し、能登への支援や今夏の災害に向けた防災啓発活動を実施しました。6月には佐賀県武雄市と「災害時等における支援物資及び施設利用に関する覚書」を締結したほか、台湾地震で連携した台湾の民間災害医療団体を訪問。緊張感の高まる出水期に備え、国や組織の壁を超えて協力し合う体制づくりを整えています。

今号のニュースレターでは、能登における復旧・復興支援活動を中心に、次の災害に向けた体制整備の取り組みについてご報告します。



富岡町3.11を語る会

災害の教訓を手話で伝える かたりべ 語り人育成講座開始!

Civic Forceの東日本大震災「NPOパートナー協働事業」では災害の経験と教訓を未来につなぐ「伝承」の取り組みに力を入れています。その一環として6月30日、手話で伝える「語り人(かたりべ)育成講座」が福島県でスタート。聴覚に障害のある人や手話通訳者計25人が参加し、10月までに3回実施予定です。

詳しくはこちら





被災地を
支援する

能登半島地震から半年 被災者の孤立を防ぐために

マンパワー不足が顕在化する日本の災害対応に大きな課題を突きつける能登半島地震。先が見えない被災地の現実を前に、引き続き被災した奥能登や金沢市などで活動する4団体と連携して、孤立や災害関連死を防ぐ支援に力を入れています。



NPOパートナー
協働事業

\\ NEW //

石川各地
BIG UP石巻

移動手段を失った人の足になる



「移動手段がなくなり困っている」という被災者のニーズに応えるため、宮城県石巻市のBIG UP石巻は、4月から車での送迎支援を続けています。加賀、小松、白山、高岡、金沢など被災地から離れて二次避難を続ける人が、輪島や珠洲などへ移動したり、みなし仮設住宅と被災した家を行き来したりなど、これまでに延べ250人以上を送迎しました。

「東日本大震災の教訓を伝えたい」と目的地にたどり着くまでの間、被災した人の困りごとを聞いたり助言をしたり、ただ車に乗せて送るだけではない個々の要望に合わせた支援を続けています。また、BIG UP石巻では珠洲市でのシャワーブース支援の取り組みも継続中。在宅被災者など地域の人々のニーズを受けて、県民体育館のシャワーブースは秋頃まで運営予定です。



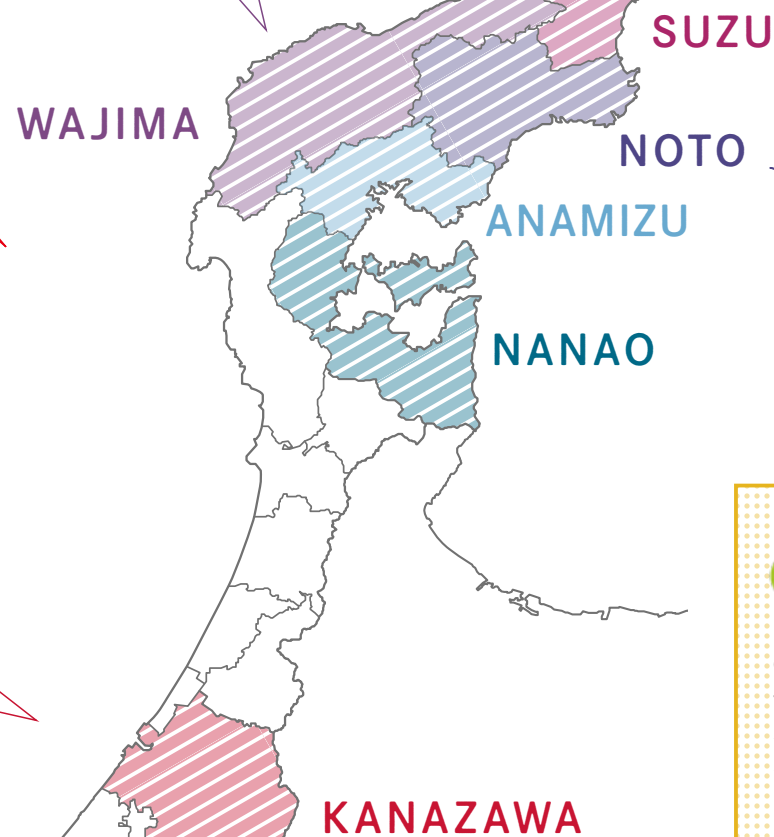
輪島市 穴水町
被災地NGO協働センター
一人一人に寄り添い孤立を防ぐ



「30年前の地震の後、多くの方が孤独死で命を落とした。同じ過ちを繰り返したくない」。発災から5年で250人以上が孤独死で亡くなった阪神・淡路大震災の教訓を生かすべく、神戸の被災地NGO協働センターは、今回の能登半島地震でいち早く七尾市の避難所などに入り緊急支援を開始。現在、輪島市や穴水町などの被災住宅を一軒一軒訪問したり、集会所などで被災者の話を聞く「足湯隊」を派遣したり、一人一人に寄り添った支援を続けています。

金沢市 輪島市 能登町
北陸学院大学被災地支援センター
全国の若い力を被災地へ

被災した地域の人手不足が深刻な課題となる中、金沢市にある北陸学院大学被災地支援センターでは発災後、学生ボランティアを輪島市や能登町などの被災地に派遣し、避難所や被災者の自宅の清掃、写真洗浄、仮設住宅でのサロン、子どもたちの居場所づくり、金沢近辺での二次避難者向けサロンなどさまざまな活動を続けています。「被災地のために何かしたい」と願う全国の大学生と被災地を結ぶハブ機能の役割も果たし、今後は仮設住宅の集会所などパブリックスペースで交流イベントを行うなど、孤立や災害関連死を防ぐ取り組みを強化していく予定です。



金沢市
小さなCoveプロジェクト
避難者の居場所をつくる



珠洲市で被災し金沢に避難中の「Cafe Cove」店主らが開始した「小さなCoveプロジェクト」では、「避難している人たちが集まれる場をつくらう」と金沢駅前前で小さなカフェを運営。手づくりの体に優しい食事を楽しみながら、避難生活で抱える不安や悩みを共有し、生活再建への一歩を踏み出す活力になっています。5月は、駅前まで足を運べない避難者のために、金沢市で7日間にわたって出張「小さなCove」を展開し、延べ183組284人が訪れました。



子どもたちを支援するNPOに
日用品をお届け

Civic Forceが運営するオンラインマッチングプラットフォーム「Good Links」※では、能登半島地震の被災地で活動する団体に順次物資を届けています。6月、金沢市を拠点に避難中の子どもたちの居場所づくりや勉強の支援を続ける珠洲市のNPO法人ガクソーにBOXティッシュやトイレトイペーパーなどを支援しました。

※Good Linksは災害支援の分野で継続的に活動を行っている非営利団体のご利用いただけます。被災地で必要な物を登録する「リクエスト(ほしい物)登録」もご利用いただけます。詳しくは、事務局までお問い合わせください。
gl@civic-force.org

夏休み助け合い
送料無料キャンペーン
実施中
~8/30(金)まで



佐賀県武雄市と覚書締結 支援物資を共同備蓄

Civic Forceは6月25日、佐賀県武雄市と「災害時等における支援物資及び施設利用に関する覚書」を締結し、同日中に武雄市の備蓄倉庫へ物資を搬入。物資を共同で管理し、災害などで物資が必要となった場合にいち早く被災地へ届けます。



東北事業報告書を公表

東日本大震災支援「NPOパートナー協働事業」の2023年度活動報告書(2023年5月～2024年4月)」を公表しました。



各地で講演・講義・啓発活動

女性議員向け勉強会に登壇

Civic Forceの根木佳織代表理事は5月16日に東京都内で開催された「全国女性議員政策研究会」で、石川県の馳浩知事らとともに登壇。「被災者支援・復興支援」をテーマにお話しました。



佐賀県で研修「仕事への情熱と使命感」

5月24日、Civic Forceの根木佳織代表理事が佐賀県の教育行政職員向け研修で、「仕事への情熱と使命感」をテーマにお話しました。



イベントで能登への支援呼びかけ

5月26日、千葉県で開催されたAmazonの社内向けイベントに出展。また、7月6日に栃木県の小江戸とちぎ祭りに参加し、能登への支援呼びかけや平時の備えの大切さを伝える活動を行いました。



メディア情報

- 07.08 **WEB** えんぎフトWEB版
「災害支援プラットフォームとして活動続けるCivic Forceが遺贈寄付に取り組む理由とは」
- 06.25 **テレビ** NHK
「災害時に備え 武雄市 被災地支援団体と支援物資を共同備蓄」
- 06.25 **テレビ** サガテレビ
「出水期に入り対策を強化 武雄市と災害支援団体が新たな備蓄品を」
- 6月 **雑誌** 冊子
『避難時のためのガイドブック～佐賀市版～』
- 04.11 **新聞** 朝日新聞(九州版)
「災害への備え 存在感増すCSO」



もっと気軽に社会貢献!

活動全般

NEW 「にっぽん福福」に掲載



ウェブサイト「にっぽん福福」の寄付先に選定されました。倉庫・工場の物件情報サイトを運営するにっぽん倉庫が不動産契約成立時の仲介手数料20%を社会貢献団体へ寄付する仕組みです。

次の災害に
備えて
物資のご支援
受付中! >>>



- Yahoo!「買って応援便」
- バリューボックス「チャリボン」
- エンパワー「買取大吉モノ募金」
- レジーナクリニック「SDGsプラン」
- プリリアンスプラス「シークレットストーン」
- ふるさと納税(佐賀県NPO支援)
- サンナップ(アスクル限定販売)
- 「フェーズフリー認証 紙コップ メジャーメント」
- 本棚お助け隊「古本チャリティ募金」
- ECナビ「スマイルプロジェクト」
- シーズン合同会社「チャリティーブランドBeMee」

東日本大震災

- Yahoo!ネット募金

寄付付き商品・サービスなど
様々な方法で
気軽にご支援いただけます!



1日33円からできること

次の大規模災害に向けて平時から備えておくために皆様の力が必要です。マンスリーサポーターとして毎月定額(1,000円単位)のご寄付で支えてください(クレジットカードのみ)。また、団体活動全般へのご寄付は以下の口座で受け付けています。

- 銀行：三井住友銀行 青山支店 普通 6953964
- ゆうちょ：00140-6-361805
上記いずれも口座名義は「シャ）シビックフォース」
- クレジットカード：HP「オンライン募金」より ▶



SNSで最新情報をお届けします

シビックフォース     

ニュースレターのバックナンバーはこちら▼
<https://www.civic-force.org/about/publication.html>

メールマガジン「被災地の今を知る」登録▼
<https://www.civic-force.org/mailmagazine/index.html>